

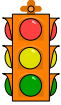
PowerVisorS

ユーザーズガイド

Windows 2000 / XP / 2003版

株式会社 ジーエス・ユアサ パワーエレクトロニクス
ジリオン・ネットワークス 株式会社

2004/06/25



ご注意

ソフトウェアをインストールする前に下記の事項をよくお読みになり、その内容に同意できる場合に限り、インストールを行って下さい。もし同意できない場合は、本ソフトのご使用をおやめください。

1. 本ソフトを他人へ譲渡・販売する、またはネットワークへアップロードするなどの行為は禁止されています。
2. 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
3. OSの種類、バージョンまたはUPSの機種によって、本ソフトの全部または一部の機能が動作しない場合があります。
4. OSの種類、バージョンまたはコンピュータの機種によって、本書の内容が実際と食い違う場合があります。
5. 本ソフト、本書およびそこに記載されている製品を使用したことによってシステムや機器に万が一トラブルや故障が発生しても、弊社は原因の如何にかかわらず一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
6. 本ソフトの仕様および本書に記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
7. 製品の内容については万全を期していますが、ご不審の点や誤り、本書の記載漏れなどお気づきの点がありましたら、弊社までご連絡ください。

商標およびライセンスについて

- ・ 本製品のライセンスの一部については、アルファテック株式会社に帰属します。
- ・ Microsoft Windows および、WindowsNT、Windows2000、WindowsXP、Windows2003 は、Microsoft Corporation の米国および、その他の国における登録商標です。
- ・ 本マニュアルに記載されている会社名、製品名は、各社の商標および、登録商標です。

本マニュアルに記載されている画面イメージは Windows 2000 のものです。

はじめに

このたびは、接点式無停電電源装置監視ソフトウェア「PowerVisorS」をご利用いただき、誠にありがとうございました。

このユーザズガイドは、PowerVisorS のインストールから基本的な操作方法までを詳しく説明しています。ご使用前によくお読みいただき、PowerVisorS を正しくお使いください。

なお、このユーザズガイドは大切に保管していただき、ご不明な点が生じたときにもご活用ください。

製品についてのご連絡 / お問い合わせ

本ソフトのサポートは電子メールによるサポートに限らせていただきます。弊社「ミニ UPS サービス相談室」まで電子メールをお送りください。

(ミニUPSサービス相談室)

E-mail : ups.support@jp.gs-yuasa.com

TEL 0120-456-652 (フリーダイヤル)

TEL 075-312-0680 (携帯電話・PHS ご使用の場合)

(販売元)

株式会社 ジーエス・ユアサ パワーエレクトロニクス

URL <http://www.gs-yuasa.com/gype/jp/>

(営業窓口：東京)

東京都大田区大森北 4-8-1 〒143-0016

(ユアサ大森ビル)

TEL 03-5763-1713 FAX 03-5763-1714

(営業窓口：西日本)

大阪市北区堂島 2-2-2 〒530-0003

(近鉄堂島ビル 14F)

TEL 06-6347-7691 FAX 06-6347-7692

(営業窓口：名古屋)

名古屋市中区丸の内 1-2-31 〒460-0002

(景雲橋ハイツ 1F)

TEL 052-232-0460 FAX 052-232-0461

(開発元)

ジリオン・ネットワークス株式会社

大阪市中央区南森町 2-5-9 〒541-0054

(ユーマンビルディング)



URL <http://www.zirion.co.jp>

安全にご使用いただくために



このユーザーズガイドには、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しく使っていただくために、重要な内容を記載しています。次の内容をよく理解してから本文を読み、記載事項を守ってください。

- 記号・絵表示

記号

 危険	人が死亡又は重傷を負う恐れがある内容を示しています。
 注意	けがをしたり、財産に損害を受ける恐れのある内容を示しています。

絵表示



















	してはいけないことを表しています。
	しなければならないことを表しています。

- 用途の制限

人の生命に関わる装置等には、絶対に使用しないでください。

人の安全に関わる、または公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置などについては、システムの多重化等の十分な措置を講じてください。

- 取り扱い上の注意

 注意	UPS は、付属の取扱説明書の指示通りに正しくご使用ください。	
 注意	UPS とコンピュータとの接続には必ず専用ケーブルをお使いください。	
 注意	付属ケーブルの分解や改造はしないでください。	
 注意	電源プラグを抜き差しする時は、電源プラグを持って行ってください。	
 注意	UPS の電源スイッチを切る時は、前もってコンピュータを停止させてから行ってください。	
 注意	UPS の警報ブザーが鳴る、故障ランプが点滅するなどの異常が生じたら、UPS の取扱説明書の指示にしたがって処置してください。	
 注意	装置に損傷を与える恐れがありますので、インタフェースケーブルの着脱は必ずコンピュータと UPS の電源を切って行ってください。	
 危険	ぬれた手で操作しないでください。	
 危険	UPS から煙が出る、変なにおいがするなどの異常が生じたら、ただちに UPS の取扱説明書の指示にしたがって処置してください。	



危険

UPS をぐらついた台の上や不安定な場所に置かないでください。



目 次

1 . 概要.....	P. 1
2 . インストール.....	P. 2
(1) コンピュータとの接続.....	P. 2
(2) ソフトウェアのインストール.....	P. 3
(3) ライセンス.....	P. 5
(4) 通信ポートの設定.....	P. 5
(5) サービスの起動.....	P. 6
3 . 動作条件設定.....	P. 7
(1) 通信ポートのページ.....	P. 7
(2) 停電処理のページ.....	P. 8
(3) ブロードキャストのページ.....	P.10
(4) スクリプトのページ.....	P.11
(5) トラップのページ.....	P.12
(6) メールのページ.....	P.13
4 . 本ソフトを削除する方法.....	P.15

1

概要

PowerVisorS は Windows 2000/XP/2003 を搭載したコンピュータ上で動作する無停電電源装置(以下、UPS)モニタプログラムです。

UPS のうち接点信号出力を持つものを対象に、電源装置の状態を監視し、システムのセキュリティを提供します。

UPS 監視

通常状態では UPS からの信号を監視しています。

警報表示

入力電源が停電しバッテリー給電状態となると、モニタ画面に警報を表示します。

オートシャットダウン機能

停電後、一定時間を経過しても復電しない時、あるいはバッテリー電圧低下の時は自動シャットダウン処理を実行します。(注1)

ヒストリ管理機能

停電発生、復電等のイベントを時刻と共に記録します。イベントビューアで確認することができます。

SNMP トラップと電子メール送信機能

電源障害を、SNMP トラップや電子メール(SMTP サーバへ送信)で遠隔の監視端末に通知することができます。

(注1) ご使用のアプリケーションによっては正常にシャットダウンできない場合があります。Windows 2000/XP/2003 でご使用の場合、UPS の自動出力停止はできません。

2

インストール



 **注意**

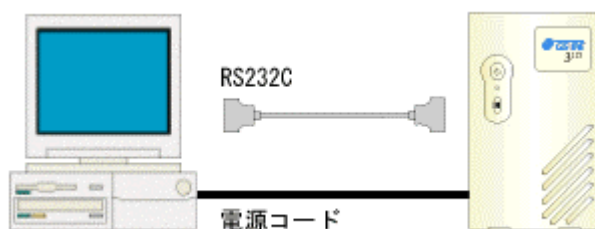
 **注意**

 **注意**

 **注意**

 **危険**

(1) コンピュータとの接続



1. UPS の外部転送信号（信号出力）コネクタと、コンピュータのシリアル(RS-232C)コネクタを UPS 添付のケーブルで接続します。

GE3115 シリーズ以外で使用する場合は、Windows NT の UPS サービス用の信号ケーブルで接続します。それぞれの取扱説明書を参照し、間違いのないように接続してください。

2. コンピュータの電源コードを、同じく UPS の背面出力コンセントに接続します。

装置に損傷を与える恐れがありますので、インタフェースケーブルの着脱は、必ずコンピュータと UPS の電源を切って行ってください。

UPS は付属の取扱説明書の指示通り正しくご使用ください。

UPS とコンピュータとの接続には、必ず専用ケーブルをお使いください。

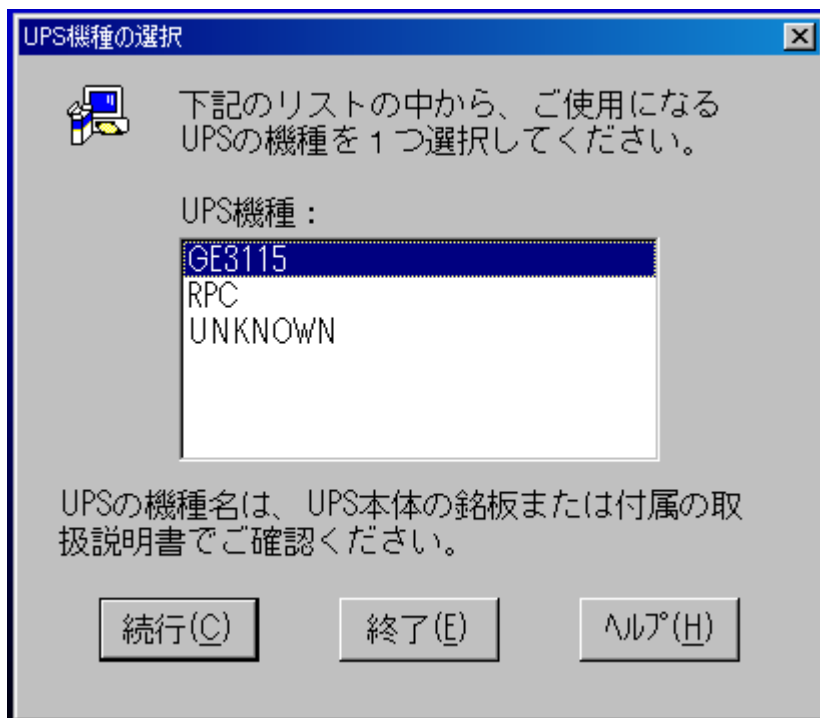
付属ケーブルの分解や改造はしないでください。

UPS をぐらついた台の上や不安定な場所に置かないでください。

操 作
手 順

(2) セットアップ

1. UPS の前面スイッチを入れます。次にコンピュータの電源を投入して、Windows を起動し、ユーザ名「Administrator」でログインします。
2. 本ソフトのCD-ROMをドライブに挿入します。
3. Windows の<スタート>ボタンをクリックし、【ファイル名指定して実行】を選択しクリックします。
4. 【コマンドライン】ボックスに本ソフトのCD-ROM が入っているドライブ名を入力し、続けてコロン(:)および¥Windows¥Setup.exe と入力します。(例) d : ¥Windows¥Setup.exe
<OK> ボタンをクリックするとセットアッププログラムが起動します。
5. セットアッププログラムが起動し、<続行>ボタンをクリックするとセットアッププログラムが開始します。
6. 「UPS 機種を選択」リストの中から接続している UPS 機種を選択して、<続行>ボタンをクリックしてください。



リストの中に接続している UPS 機種が存在しない時は、UNKNOWN を選択してください。

7. 次に、インストール先のドライブ名とディレクトリ名を入力し、<続行> ボタンをクリックします。（デフォルトは、C:\UPSです。）
注）ディレクトリ名にアルファベット、数字以外の文字を入力しないでください。
8. インストールが正常に終了すると「インストールは完了しました」のメッセージが表示されます。<OK> ボタンをクリックしてください。デフォルトの設定情報が登録され、「動作条件の設定」が起動します。
（「PowerVisorS」フォルダが開きますが、閉じてください。）
9. ライセンスの設定を行います。
詳細は、第2章（3）ライセンス（5ページ）参照。
10. “通信ポート”を接続している通信ポートに設定して <OK> ボタンをクリックします。
詳細は、第2章（4）通信ポートの設定（5ページ）および第3章（1）通信ポートのページ（7ページ）参照
11. サービスの起動を行います。
詳細は、第2章（5）サービスの起動（6ページ）参照。
12. 以上で本ソフトのインストールは完了です。本ソフトのCD-ROMを取り出して、コンピュータを再起動してください。

(3) ライセンス

ソフトウェアのセットアッププログラムが終了すると、「動作条件設定」プログラムが自動的に起動し、ライセンスの設定を求めています。(図 2 - 1 参照)。

セットアッププログラム終了直後は、「ライセンス」画面のシリアル番号とオーソライゼーションコードは共に空白となっています。

ここに、シリアル番号「FREE20」とオーソライゼーションコード「20GMIM4E」を入力します。



図 2 - 1

(4) 通信ポートの設定

「通信ポート」のタブをクリックします。シリアルポートのデフォルトはCOM1 となっています。COM1 と異なっている場合は、< > ボタンをクリックし、接続されている通信ポートに変更してください。

UPS機種でUNKNOWNを選択された場合は、第3章「(1) 通信ポートのページ」(7ページ) に従って信号極性の変更を行ってください。

(5) サービスの起動

本ソフトを使用するには、本ソフトのサービスをコンピュータに登録して開始します。また、あとで動作条件の設定を変更した時は、動作中の本ソフトのサービスを一旦停止して、再び開始する必要があります。

1. Windows の<スタート> ボタンをクリックし、【設定】メニューから【コントロールパネル】を選択しクリックします。
2. コントロールパネルの中の【管理ツール】アイコンをダブルクリックします。
3. 管理ツールの中の【サービス】アイコンをダブルクリックします。
4. 表示されているリストをスクロールして「Power Monitoring」の行をダブルクリックし「Power Monitoring のプロパティ」を表示させます。
5. 「全般」のページを選択し、サービスの状態表示が「開始」となっていたら、<停止> ボタンをクリックして、本ソフトのサービスを一旦停止します。
6. <開始> ボタンをクリックすると、サービスが開始され、サービスの状態表示が「開始」となります。
7. スタートアップの種類を< > ボタンをクリックし、「自動」に変更します。
すでに「自動」になっている場合は変更の必要はありません。
8. 「ログオン」ページを選択し、「デスクトップとの対話をサービスに許可」をチェックしてください。すでにチェックされている場合は変更の必要はありません。
9. <OK> ボタンをクリックします。これで本ソフトのサービスが、コンピュータの立上げ時に自動的に開始されます。
10. 「サービス」および「管理ツール」を終了します。

3

動作条件設定

<スタート> ボタンをクリックし、【プログラム】メニューから、【PowerVisorS】 - 【動作条件設定】を選択しクリックしますと、動作条件設定プログラムを起動します。

設定する項目は関連のあるものごとに、いくつかのページに分けられています。

(1) 通信ポートのページ

UPSと通信するシリアルポート名を設定します。(図3 - 1)

接続ポート…

< > ボタンをクリックし、COM1, COM2, COM3, COM4 に変更できます。

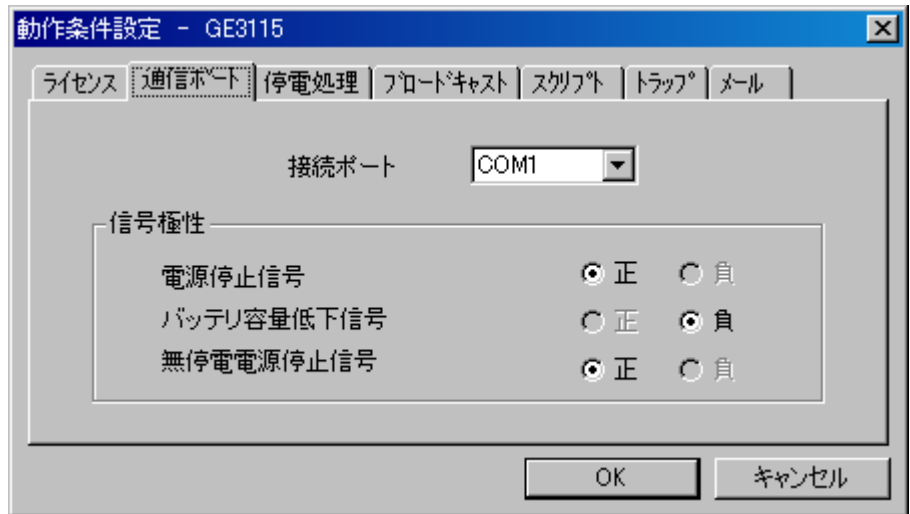


図3 - 1

信号極性…

インストール時に UPS 機種を Unknown 以外に選択した場合は、信号極性の変更は必要ありません。また変更する事はできません。

Unknown を選択した場合の信号極性は、Windows NT の UPS サービスを設定する方法と同じです。UPS 取扱説明書等の Windows NT の UPS サービスで使用する場合の説明を参照してください。

Windows2000/XP/2003 でご使用の場合、UPS の出力停止はできません。



“通信ポート”の設定変更を反映させるには、一旦サービスを停止してから、再び開始する必要があります。詳細は、第2章(5)サービスの起動(6ページ)を参照してください。

(2) 停電処理のページ

UPS の監視時間、並びに停電が発生したときの PowerVisorS の動作時間を設定します。(図 3 - 2)

停電確認時間・・・

停電が発生してから電源の回復を待つ時間を指定します。
この間に電源が回復すると、シャットダウンは行われません。設定最小時間は 10 秒、設定最大時間は停止遅延時間を含めて 280 秒です。デフォルト： 120 秒

停止遅延時間・・・

「停電確認時間」が過ぎると、電源の回復が望めないと判断します。

「停止遅延時間」で指定した時間の後にシャットダウンを実行します。この間に電源が回復しても、シャットダウン処理は中止されません。設定最小時間は 0 秒、設定最大時間は停電確認時間を含めて 280 秒です。デフォルト： 30 秒

UPS 停止時間・・・

この機能は動作しません。

Windows2000/XP/2003 でご使用の場合、UPS の出力停止はできません。

警告間隔・・・

停電発生時の警告メッセージの表示間隔を設定します。設定最小時間は 5 秒、設定最大範囲は設定されている停電確認時間と停止遅延時間をあわせた時間です。デフォルト： 30 秒

警告を表示する・・・

警告メッセージを表示するか否かの設定をします。

デフォルト： 警告を表示する (チェックボックスにチェック)



図 3 - 2

(3) ブロードキャストのページ

メッセージ表示動作を設定します (図 3 - 3)。

[Messenger]サービス…

Messenger サービスにより警告メッセージを表示させるか否かの設定をします。Messenger サービスにより警告メッセージを表示させるには、Messenger サービスが開始している必要があります。使用しないに設定した場合は本ソフト独自の警告メッセージを表示します。デフォルト： 使用する

クライアント用メッセージ…

弊社製クライアントメッセージ用ソフトがインストールされたネットワークコンピュータにメッセージを表示させるか否かの設定をします。デフォルト： 使用しない

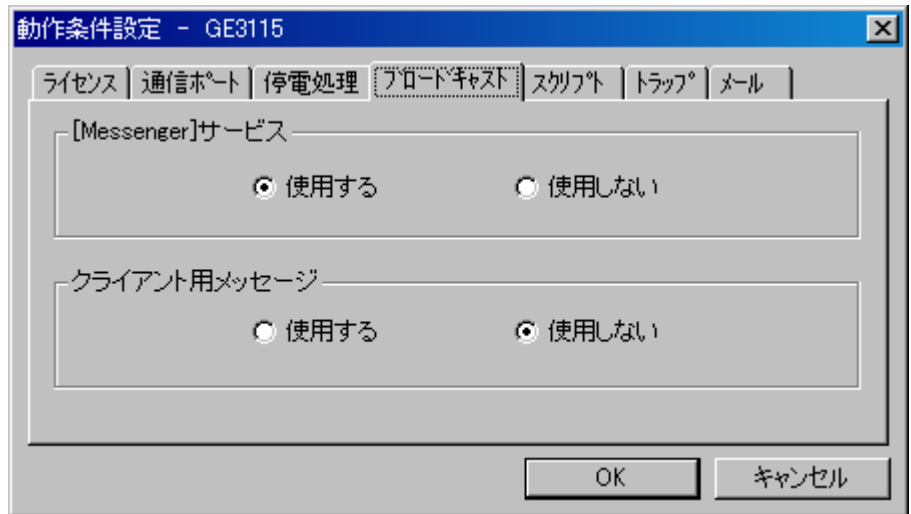


図 3 - 3

(4) スクリプトのページ

スクリプトの自動実行について設定します(図3-4)。
下記の「起動タイミング」で指定されたタイミングにてバッチファイルを自動的に実行します。

起動タイミング…

設定する起動タイミングを選択します。

- ・ スタートアップ時
- ・ 停電発生時
- ・ 復電時
- ・ 回復不能とみなされた時

各起動タイミング毎で実行スクリプト(バッチファイル)を指定できます。

実行コマンド…

起動するバッチファイル名を入力します。

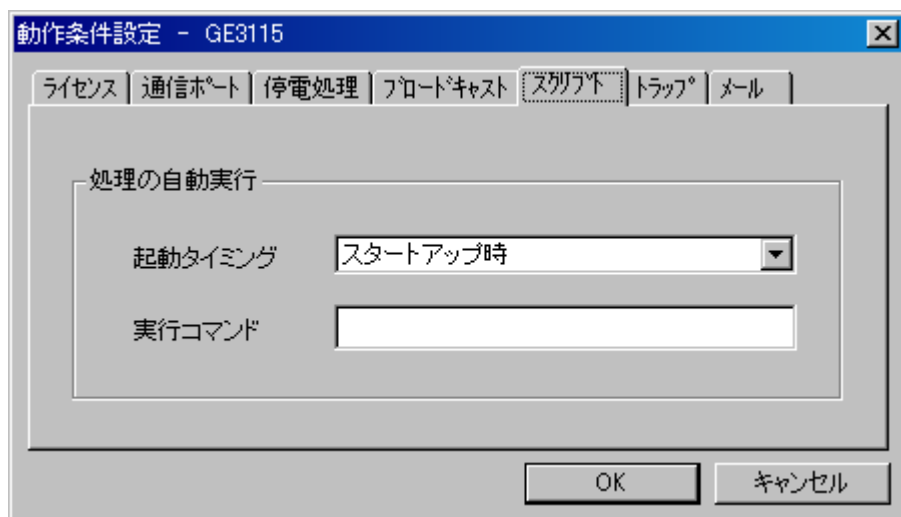


図3-4

(5) トラップのページ

トラップ送信のための設定をします。(図 3 - 4)

停電時、復電時、シャットダウン時に SNMP マネージャに対して SNMP トラップを送信することができます。

送信できるトラップは 2 種類です。

停電時 enterpriseSpecific(6) upsTrapOnBattery 33.2.1.0

復電時 upsTrapAlarmEntryRemoved 33.2.4.0



図 3 - 4

トラップの送信...

SNMP トラップ送信機能を有効にするか無効にするかの設定をします。デフォルト：無効

送信先...

トラップを送信する (SNMP マネージャが動作している) ホスト名もしくは IP アドレスを入力します。最大 3 個所まで指定できます。

コミュニティ...

送信トラップのコミュニティを入力します。デフォルト：「public」

(5) メールのパージ

E-mail 送信するための設定をします。(図 3 - 5)

停電時、復電時、シャットダウン時に E-mail を送る事ができません。

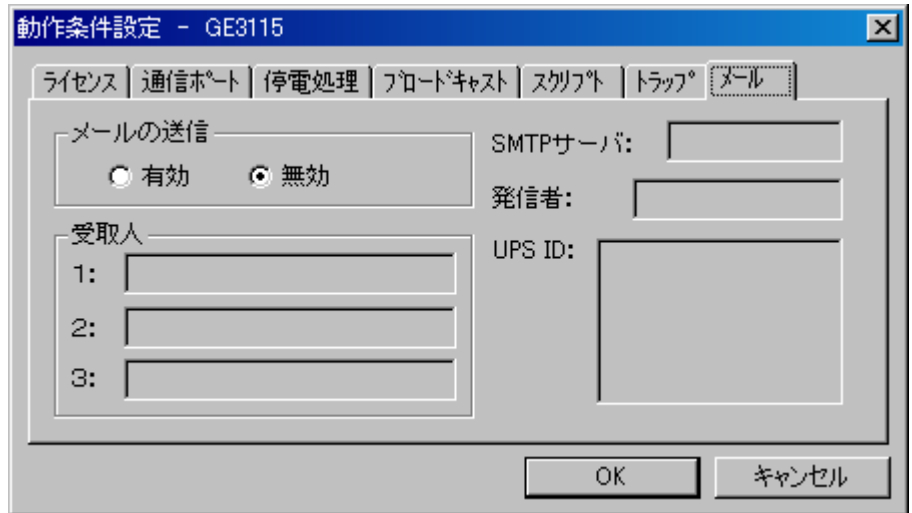


図 3 - 5

メールの送信・・・

E-mail 送信機能を有効にするか無効にするかの設定をします。

デフォルト： 無効

受取人・・・

本ソフトから送られた E-mail を受け取る人を登録します。

E-mail を受け取りたい人のアドレスを入力します。最大 3 個所まで指定できます。(例) kanrisya@abcdefg.co.jp

SMTP サーバ・・・

E-mail を配信する SMTP サーバのホスト名もしくは、IP アドレスを入力します。SMTP サーバが存在しないと E-mail は送信できません。SMTP サーバについては、設置されているネットワークのネットワーク管理者に確認してください。

発信者・・・

E-mail の発信元アカウントを入力します。

(例) hostname@abcdefg.co.jp

設置されている SMTP サーバによっては、SMTP サーバに登録されているアカウントでしか、送信できない場合があります。ネットワーク管理者に確認してください。

UPS ID・・・

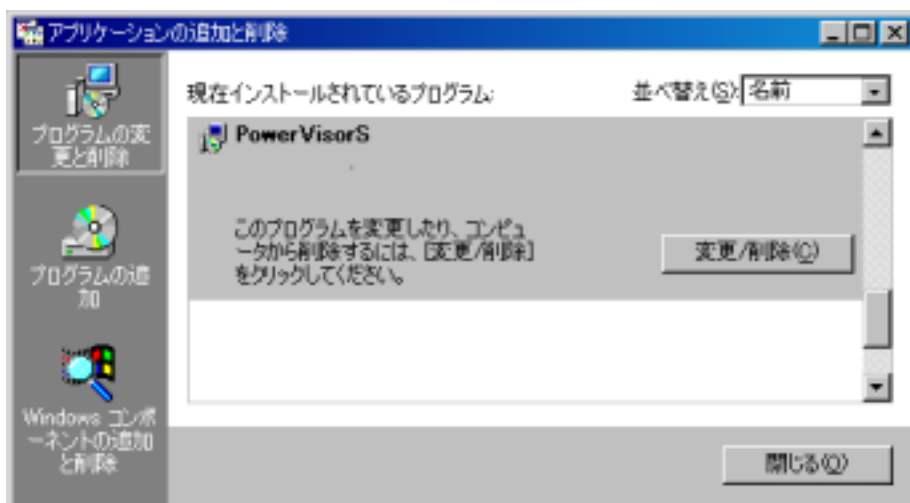
メール本文に添付される文字列(UPSの管理ナンバー等)を入力します。

4

本ソフトを 削除する方法

本ソフトのプログラム等を削除して、インストール前の状態に戻したい時は以下の手順で行います。

1. 本ソフトのサービス「Power Monitoring」サービスを停止します。
2. Windows の<スタート> ボタンをクリックし、【設定】メニューから【コントロールパネル】を選択しクリックします。
3. コントロールパネルの中の【アプリケーションの追加と削除】アイコンをダブルクリックします。
4. 「現在インストールされているプログラム」の一覧の中から「PowerVisorS」をクリックし、<変更と削除> ボタンをクリックします。



5. 本ソフトの関連するファイルが削除されます。